

審議会における検討

○文化審議会国語分科会日本語教育小委員会における検討

- ・「生活者としての外国人」に対する日本語教育について、下記5点を取りまとめ。
「標準的なカリキュラム案」(2010年5月), 「活用のためのガイドブック」(2011年1月), 「教材例集」, 「日本語能力評価」(2012年1月), 「日本語指導力評価」(2013年2月)
- ・「日本語教育の推進に向けた基本的な考え方と論点の整理について(報告)」(2013年2月)において、日本語教育に関する諸課題について、主な論点を11項目に分けて整理した。
- ・2019年3月には、国語分科会において、「日本語教育人材の養成・研修の在り方について(報告)(改定版)」を取りまとめ。
- ・現在、「日本語教師のスキルを証明する新たな資格の整備」について検討中(2019年度中に結論を得る予定。)
- ・2019年度以降、「日本語教育の標準等の作成(日本版CEFR)」についての審議に着手する予定。

具体的な事業の実施

「生活者としての外国人」のための日本語教育事業

(2018年度予算額 85百万円)
(2019年度予算額 46百万円)

○地域日本語教育実践プログラム

NPO法人や公益法人等が行う、日本語教室の教育上の課題や広域的活動に伴う課題等を解決するための先進的取組への支援等を実施
【2018年度実績】39件(地方公共団体, NPO等)

○地域日本語教育コーディネーター研修

一定の経験を有し、日本語教育プログラムの編成やその実施に必要な連携・調整に携わっている者等を対象に研修を実施(毎年20~40名程度)



「生活者としての外国人」のための日本語教室空白地域解消推進事業

(2018年度予算額 50百万円)
(2019年度予算額 140百万円)

○地域日本語教育スタートアッププログラム

日本語教室空白地域であって、日本語教育のノウハウを有していない地方公共団体に対し、アドバイザーの派遣等の支援を実施
【2018年度実績】18件(主に市町村)

○日本語学習教材(ICT教材)の開発・提供

日本語教室の設置が困難な地域に住む外国人に対し、インターネット等を活用した日本語学習教材(ICT教材)を開発・提供
2019年度は、6言語(日・英・中・スペイン・ポルトガル・ベトナム)開発予定

○空白地域解消推進協議会

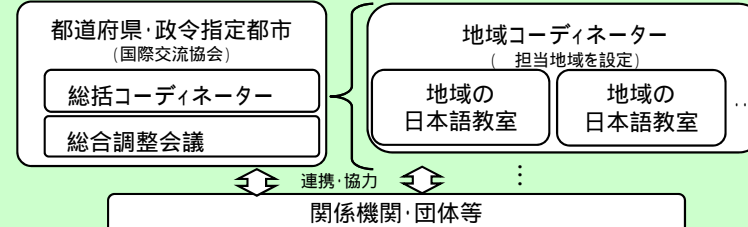
地域日本語教育の総合的な体制づくり推進事業 (新規)

新たな在留資格の創設等を踏まえ、地方公共団体が関係機関等と有機的に連携し、日本語教育環境を強化するための総合的な体制づくりを推進。

(新規)
2019年度予算額 497百万円

- プログラムA
・地域の実態調査や実施計画策定のための経費を補助
- プログラムB
・地方公共団体における総合的な体制づくりのため、司令塔となる人材や日本語教室運営などの経費を補助

A, Bともに都道府県・政令指定都市への2分の1補助
A = 30件, B = 17件程度を採択予定



日本語教育の人材養成及び現職者研修カリキュラムの開発事業

(2018年度予算額 28百万円)
(2019年度予算額 63百万円)

文化審議会国語分科会が示した「日本語教育人材の養成・研修の在り方及び教育内容」の普及を図るため、以下の事業を実施(他の機関の見本となる事例を構築する委託事業)

○日本語教師養成プログラムの開発・実施

文化審議会国語分科会が示したモデルカリキュラムに基づく日本語教師の養成プログラムの開発と養成の実施

○現職者研修カリキュラム・プログラムの開発・実施

文化審議会国語分科会が示した教育内容に基づく現職日本語教師研修のカリキュラム・プログラムの開発と研修の実施

【2018年度実績】

- ・養成...2件(大学, 日本語教育機関)
- ・研修...9件(日本語教育機関, 公益法人, 地方公共団体等)

日本語教育に関する調査及び調査研究等

(2018年度予算額 15百万円)
(2019年度予算額 14百万円)

- 日本語教育に関する実態調査
- 日本語教育の総合的な推進に向けた調査研究
- 日本語教育研究協議会
日本語教育関係者を対象に優良事例の紹介等を行うイベント
- 日本語教育コンテンツ共有化推進事業
日本語教育に関するポータルサイト「NEWS」を運用
- 日本語教育推進会議
関係省庁や日本語教育関係団体が意見交換や情報共有を行う会議

条約難民及び第三国定住難民に対する日本語教育

(2018年度予算額 43百万円)
(2019年度予算額 44百万円)

条約難民及び第三国定住難民に対する定住支援策として日本語教育プログラム等を外部に委託して実施

【目的】 新しい在留資格の創設等の国の政策によって、今後、在留外国人の更なる急増が見込まれる中、外国人を日本社会の一員として受け入れていく(社会包摂)ため、日本語能力が十分でない外国人が生活等に必要な日本語能力を身に付けられるよう、地方公共団体が、関係機関等と有機的に連携しつつ行う、日本語教育環境を強化するための総合的な体制づくりを推進し、もって、「生活者としての外国人」の日本語学習機会の確保を図る。

プログラムA

主な目的

- 国と地方公共団体が、**地域の日本語教育の実態や課題等を把握**
- 都道府県・政令指定都市が、日本語教育実施の具体的な**計画策定**を通じ、今後の対応方針を明確化

概要

○ 地域の実態調査

外国人等の現況、市区町村の体制や取組状況、地域コミュニティと外国人との関係、地域の日本語教育の課題等を調査

○ 実施計画策定

地域の日本語教育実施の具体的な計画を策定

- 採択件数：**30件程度**（1年間）
- 補助率：**2分の1**
- 補助額：1件当たり**450万円**程度を想定

2年目以降に一部Bに移行

プログラムB

主な目的

- 都道府県・政令指定都市における体制づくりのための取組を財政的に支援し、全国各地に日本語教育が行き渡ることを目指す。

概要

○ 総合的な体制づくりのための取組への補助

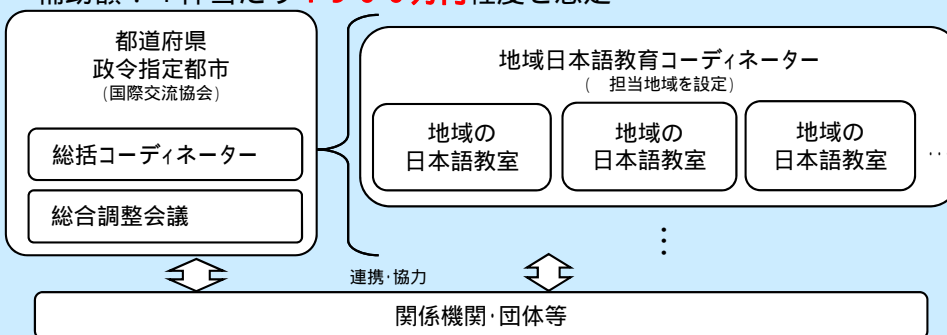
都道府県・政令指定都市に地域日本語教育の司令塔機能を置くとともに、**地域日本語教育コーディネーター**が、当該**地域や外国人の特性等に対応**した教育プログラムを策定し、地域内の日本語教室への指導・助言等を行うような**総合的な体制づくり**のための取組を財政的に支援。

その際、事業計画が、地域や外国人の実態・特性を十分に踏まえたものとなること、また、大学などの関係機関・団体等との有機的な連携が図られていること等、より実効性の高い計画となることを促進。

○ 優良事例等の普及

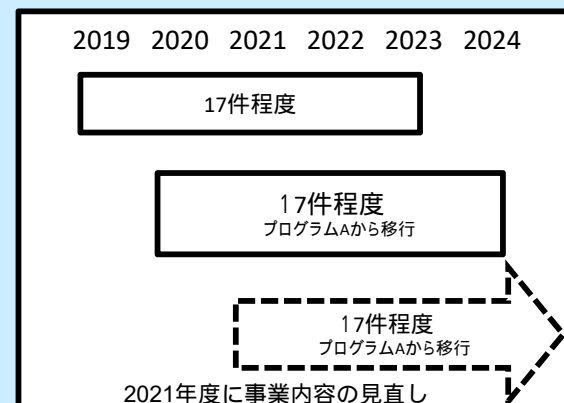
国は、優良事例について、会議やポータルサイト等を通じて、その普及を図る。

- 採択件数：**17件程度**
- 補助率：**2分の1**
- 補助額：1件当たり**1900万円**程度を想定



(文化庁委託事業による地域の日本語教室の例)

年度進行のイメージ



- 都道府県・政令指定都市日本語教育推進会議
- 日本語教育のポータルサイト(NEWS)等を通じて、優良事例等の成果を全国に普及

日本全国で外国人に対する日本語教育体制が確立し、全国各地に日本語教育が行き渡る

事業概要

文化審議会国語分科会が日本語教育人材の資質・能力の向上を図ることを目的として、平成31年3月に取りまとめた「日本語教育人材の養成・研修の在り方について（報告）（改定版）」で示す「日本語教育人材の養成・研修の在り方及び教育内容」（以下、「教育内容等」という。）の普及を図るため、これらに基づくプログラム等の開発及び養成・研修の実施を委託事業として実施する。

●経済財政運営と改革の基本方針2018 ●未来投資戦略2018 ●規制改革実施計画（左記、いずれも平成30年6月15日閣議決定）

背景・趣旨

- 外国人の日本語学習者が増加する中、日本語教育の水準を向上するためには、日本語教育人材の資質・能力の向上が不可欠。
- このため、文化審議会国語分科会では日本語教育人材の資質・能力の向上を目的として、「日本語教育人材の養成・研修の在り方について（報告）」を平成30年3月に取りまとめた。（ただし、現職日本語教師研修の活動分野については、「生活者としての外国人」、「留学生」、「児童生徒等」の3分野のみ）
- 平成30年度は、現職日本語教師研修において残された課題である3つ（「就労者」、「難民等」、「海外在住の日本語学習者」）の活動分野の教育内容及びモデルカリキュラムについて審議を行い、平成30年3月の報告書の改定版を取りまとめた。
- 上記の審議会報告で提言された養成・研修の「教育内容等」の普及を図るためには、「教育内容等」を実際に養成・研修の現場で適用し、効果的な運用モデルを構築することが必要であり、そのため本事業を平成30年度から実施している。
- 平成31年度については、平成30年度からの継続分実施に加え、新しく追加される活動分野について新規採択する予定。

日本語教師養成

対象：これから日本語教師を目指す者

日本語教師養成プログラムの開発・実施

- 養成プログラム開発
(人材養成の教育内容及びモデルカリキュラムを参考)



プログラム開発委員会

- 養成プログラム実施



養成講座開設・実施

- 評価・検証



平成30年度委託実績
・採択件数：2件
・採択金額：約300万円/件

・受託団体：大学等の教育・研修機関

現職日本語教師研修

対象：既に日本語教育に携わる者

現職者研修カリキュラム・プログラムの開発・実施

- 研修カリキュラム及びプログラム開発
(現職者研修の教育内容を参考)



カリキュラム・プログラム開発委員会

- 現職日本語教師研修実施



研修の実施

- 評価・検証

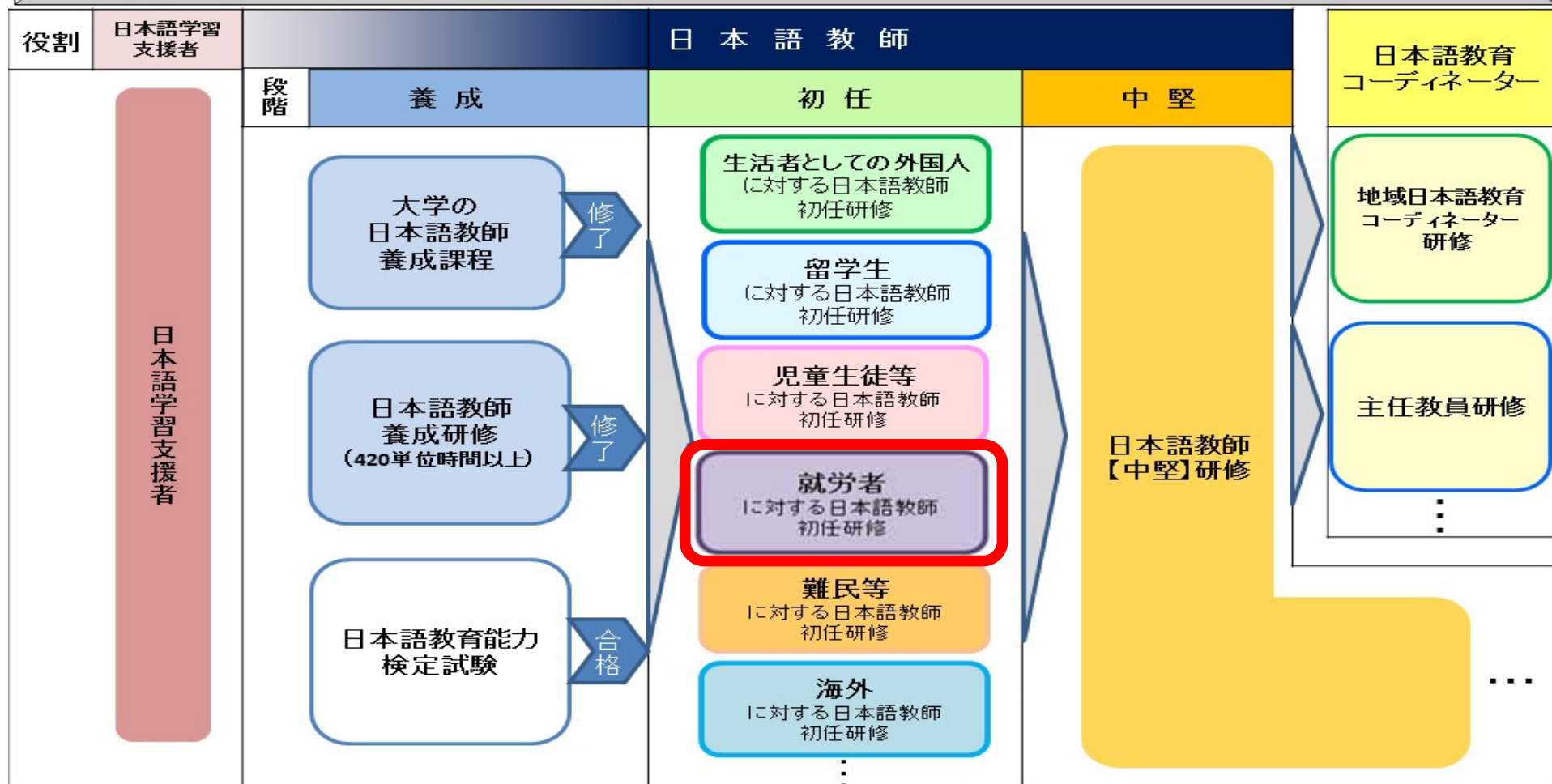


平成30年度委託実績

・採択件数：9件
・採択金額：約230万円/件

・受託団体：地方公共団体、大学等の教育・研修機関
NPO等

(参考) 日本語教育人材の役割・段階・活動分野に応じた養成・研修のイメージ



日本語教育人材		受講対象	養成・研修の実施機関
日本語教師	養成	○ 日本語教師を目指す者	○ 大学等の教育研修機関
	初任	○ 日本語教師【養成】を修了した者 ○ 当該活動分野で新たに日本語教育に携わる者	○ 教育現場におけるOJT研修や大学等の教育研修機関
	中堅	○ 各活動分野において初級から上級学習者の指導に十分な経験 (2400単位時間以上)を有する者	○ 大学等の教育研修機関
日本語教育 コーディネーター	地域日本語教育 コーディネーター	○ 中堅を経て、地域日本語教育において3年以上の実務経験を有し、 地方公共団体等でコーディネート業務にあたる者	○ 文化庁、地方公共団体 及び大学等の教育研修実施機関
	主任教員	○ 日本語教育機関において常勤経験3年以上を有する者	○ 大学等の教育研修機関
日本語学習支援者		○ 多文化共生・日本語教育に興味関心を持つ者	○ 地方公共団体、大学等の教育研修機関、NPO等

1単位時間は45分以上とする。

CEFR（セフテール）とは

「外国語の学習、教授、評価のためのヨーロッパ言語共通参照枠（CEFR：Common European Framework of Reference for Languages）」とは、シラバスやカリキュラムの手引きの作成、学習指導教材の編集のために、透明性が高く分かりやすく参照できるものとして、20年以上にわたる研究を経て、2001年に欧州評議会が発表した。

学習者の言語熟達度を表す客観的基準であり、それぞれの学習段階で学習進度が測れるように考えられており、ヨーロッパにおける言語教育の基盤となっている。

欧州をはじめとする世界の38言語の指標に用いられており、日本では、平成24年からNHKの語学番組のレベル表記に使用され、文部科学省では大学入試センター試験に代わる新たなテストとして平成32年度から実施する共通テストに参加する試験・検定試験の指標として活用されている。

段階	レベル	能力レベル別に「何ができるか」を示した熟達度一覧（Can-doリスト）
熟達した言語使用者	C2	聞いたり、読んだりしたほぼ全てのものを容易に理解することができる。いろいろな話し言葉や書き言葉から得た情報をまとめ、根拠も論点も一貫した方法で再構成できる。自然に、流暢かつ正確に自己表現ができ、非常に複雑な状況でも細かい意味の違い、区別を表現できる。
	C1	いろいろな種類の高度な内容のかなり長いテキストを理解することができる。含意を把握できる。言葉を探しているという印象を与えずに、流暢に、また自然に自己表現ができる。社会的、学問的、職業上の目的に応じた、柔軟な、しかも効果的な言葉遣いができる。複雑な話題について明確で、しっかりとした構成の、詳細なテキストを作ることができる。その際テキストを構成する字句や接続表現、結束表現の用法をマスターしていることができる。
自立した言語使用者	B2	自分の専門分野の技術的な議論も含めて、抽象的かつ具体的な話題の複雑なテキストの主要な内容を理解できる。母語話者とはお互いに緊張しないで普通にやり取りができるくらい流暢かつ自然である。幅広い話題について、明確で詳細な文章を作ることができる。
	B1	仕事、学校、娯楽などで普段出会うような身近な話題について、標準的な話し方であれば、主要な点を理解できる。その言葉が話されている地域にいるときに起こりそうな、たいいていの事態に対処することができる。身近な話題や個人的に関心のある話題について、筋の通った簡単な文章を作ることができる。
基礎段階の言語使用者	A2	ごく基本的な個人情報や家族情報、買い物、地元の地理、仕事など、直接の関係がある領域に関しては、文やよく使われる表現が理解できる。簡単に日常的な範囲なら、身近で日常の事例について単純で直接的な情報交換に応ずることができる。
	A1	具体的な欲求を満足させるための、よく使われる日常的表現を基本的な言い回しは理解し、用いることもできる。自分や他人を紹介することができる。住んでいるところや、誰と知り合っているか、持ち物などの個人的情報について、質問をしたり、答えたりできる。もし、相手がゆっくり、はっきりと話して、助けが得られるならば、簡単なやり取りをすることができる。